

「こんにちは！知事です」（令和2年11月12日（木）東通村立東通中学校） 概要

知事が小・中学校の皆さんと交流し、将来への期待等について意見交換する「こんにちは！知事です」について、東通村立東通中学校での実施概要をお知らせします。

生徒会の皆さんによる学校紹介や、全校生徒による迫力ある「鳴子踊り」を披露していただくとともに、代表生徒3名と知事が意見交換を行いました。

（参加：全校生徒143名）

（発言生徒1、3年女子）

私は、将来、医師という医療に携わる仕事に就きたいと考えています。青森県は短命県と言われており、その解決には医療従事者の育成が大きな鍵になると思います。また、現在の新型コロナウイルス感染症の問題でも、医療従事者の力がとても大きいと思います。

そのため、様々な方法で医療を目指す人材を増やしていくことが求められます。インターネットで調べたら、青森県ではドクタートークという医師と中高生が話をする事業をしています。むつ市では、中学生が青森市の大学で実習体験をしているそうです。

このような取組をもっと進めて、多くの中高生が医療従事者を目指してほしいと思います。



（知事）

青森県は医師の数が本当に足りていません。医学部に合格する人が少なかったという過去もあります。

私が百石町長の頃、今、東通地域医療センターにいる川原田先生（所長）と一緒に、一人ひとりの健康づくりから、病気になった時の医療や倒れた時の福祉までの各サービスを一体的に提供する「保健・医療・福祉包括ケアシステム」という仕組みを全国で4番目くらいに作りました。一人ひとりが自分の町で安心して生まれ育って、年を取っていくことが大事だと思ったからです。

その時も本当に医師の数が足りなくて苦労したので、知事になった時に、「良医を育むグランドデザイン」を作って、医師を育てるために、まず、医学部に入学する人たちを増やす取組を始めました。そしてどんどん増えてきています。

医師や看護師などの医療関係者の人たちは、どうしたらみんなの命を守れるかを考えて、一生懸命頑張っています。今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大が起こって、医療関係者がどれだけ頑張ってくれているかを考えると、ひたすら頭が下がります。この東通村にも、川原田先生のようにみんなの命を守ろうと頑張っている医師の方がいます。将来は、そんな、みんなの命を守ってくれる医師を目指してくれたらうれしいです。

（医療薬務課）

医師確保の取組について説明します。

青森県の医師の数は、平成30年のデータで、人口10万人当たりで見ると全国47都道府県のうち

6番目に少なく、ここ10～20年は変わらない状況にあります。

そこで、県では、青森県で働く医師を育てるために、「良医を育むグランドデザイン」という計画を平成17年に作り、それに基づいていろいろな取組を行ってきました。

例えば、中高生向けのドクタートークでは、県内で働く医師と中学生、高校生が一緒になって、話を聞いたり、質問をしたりします。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、参加対象を高校生だけにして、県内5か所で行いました。また、今年度はできませんでしたが、高校生向けの医療チュートリアル体験では、実際に病院を見学するなどの体験をしています。そのほかにも、弘前大学医学部主催で、外科手術を体験する外科手術体験セミナーを開催したり、県教育委員会では、予備校から講師を呼び、学生セミナーや研修会を開いて、勉強のサポートをしたりしています。

知事も、弘前大学医学部医学科の1年生と5年生を対象に、直接、青森県のPRや医療制度の説明をしたり、意見交換をしたりしていますし、ほかにも、修学資金の貸付制度や医学生に県内の病院の状況を説明する機会を設けています。

詳しくは、青森県医師応援サイト「医ノ森 aomori」で紹介しているので、検索してみてください。

このような取組の結果、県内の医学部医学科合格者数は、平成17年頃は30～40人でしたが、平成20年以降は70～90人と、倍近くまで増えてきました。

最後に、医師になるための説明をします。

まずは、高校を卒業し、大学の医学部医学科に入学することが必要です。その後、大学で6年間勉強し、国家試験に合格するとなることができます。国家試験の合格率は約9割ですので、6年間きちんと勉強をすれば合格できると思います。

大学では、ただ座って勉強するだけでなく、人の体を解剖したり、患者を診察したりする実習もあります。

医師の仕事は、地域医療として病院や診療所で診察するだけでなく、大学での研究などもありますし、国境なき医師団として海外で活躍する方もいます。

医師を目指すのであれば、勉強も頑張ってもらいたいですし、そのほかにも、いろいろな人と一緒になって、部活動を頑張るなどして、コミュニケーション能力を高めてほしいと思います。

(知事)

青森県は日本一の短命県で、健康面の課題がたくさんあります。この東通村にもいろいろな課題があります。その理由の一つに、40～50代の男性が早死にしてしまうということがあります。そこで、何とかしようと始めたのが「だし活」という取組です。

(下北地域県民局 地域健康福祉部)

青森県民は塩をとりすぎていることを知っていますか。

だしを活用して減塩をしようという活動、それが「だし活」です。最近は、「だし活」と合わせて、野菜をたくさん食べて、野菜に含まれているカリウムで体内の余分な塩分を出す、「だし活」+「だす活」の取組を始めて、皆さんにPRしています。青森県民の1日の野菜摂取量は目標値350gに対して300gと、あと50g足りない状況



にあります。

(知事)

「だし活」＋「だす活」の取組を通して、野菜摂取量が5年前の250gから50g増えました。目標まであと50gです。カップ麺を食べたら、ミニトマトを5個食べるというようにしてください。このようなことを県内のスーパーなどでPRをするために、「だし活ダンス」というものを行っているので、ここで披露します。

(だし活ダンス 披露)

青森県の一歩の課題である食塩摂取量の多さをどうしたらいいかというと、だしを使うことと、もっと簡単なのは野菜を食べることです。

健康づくりは、ものすごく時間をかけないと成果が現れてきません。医師やみんなが頑張ってくれているので、県でも県民の皆さんに、何か健康に良いことを1つでもしよう、だしを使ったり、野菜を食べたりしようとキャンペーンをしています。

将来、医師になるということですが、どういう勉強をしていますか。受験は、最終的に英語が大事になってきます。しっかり勉学に励んでください。

(発言生徒2、3年男子)

僕たちの住む東通村は、津軽海峡と太平洋という美しい海に面しています。僕はこの美しい海を誇りに思っています。ぜひ、もっとたくさんの人にこの美しい海を見に来てほしいです。

東通村のマスコットキャラクターは「かんだちくん」です。僕はこの「かんだちくん」を活用して、東通村をもっとPRできないかと考えます。ゆるキャラグランプリで有名になった「くまモン」や「ふなっしー」のように、例えば「かんだちくん」が東通村の観光スポットを紹介するコマーシャルを作成することなどができないかと思います。

ほかにも、東通村の観光スポットを情報発信していくための県の取組を教えてください。



(知事)

今は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で海外に行くことが難しくなってしまったけれども、県ではこれまで、全国各地、そして、台湾や韓国、中国を中心とする海外のいろいろな所を回って、青森県の観光PRを一生懸命してきました。台湾では、台北国際観光博覧会に行ったり、テレビに出たりもしたし、下北半島のPRをしたこともあります。東通村は特に、尻屋崎の秋の空がすごくきれいで、素晴らしい所だと思っています。

観光スポットを紹介するコマーシャルの話があったので、県がセールスのために作った、物販用のコマーシャルをお見せします。

(県産品PR動画 放映)

「かんだちくん」には愛嬌があるから、本当に県と一緒に何かやれたらいいなと思います。

（観光企画課）

県では、知事が「いくべえ」や「決め手くん」と一緒にいろいろなイベントに出演して、観光や県産品のプロモーションをしています。そのため、東通村の観光情報をより多くの人に知ってもらうために、かわいい「かんだちくん」と一緒にPRするのもすごく良い方法だと思います。

青森県の観光情報を東京のテレビ局などから発信してもらうために、青森のスタッフが集めた情報を東京のスタッフに伝え、そこから東京のテレビ局などに提供する取組も行っています。例えば、青森で「味噌カレー牛乳ラーメン」がおいしいと思ったら、情報を整理して、東京のスタッフに伝えます。そこから、東京のテレビ局に「これ、おいしいですよ」と情報提供することで、テレビに取り上げてもらうというものです。

ただ情報を提供するだけでは、誰も取り上げてくれないので、いかに情報を面白く見せることができるかが大事です。

先ほど、たくさんの人に見てほしいと言っていた尻屋崎から見た海は、漫画の「ワンピース」のエピソードと絡めてみると良いかもしれません。東通村の海は、黒潮と親潮がぶつかる場所、つまり、海流と海流がぶつかる場所ですので、「ワンピース」に登場するサンジが行きたがっているオールブルーという世界中の海の海流が1か所に集まる場所は、実はこの東通村の海なのではないかということで、東通村をPRすることもできると思います。

このようにして、テレビや雑誌などのいろいろなメディアで青森県を紹介してもらっています。県でもツイッターやフェイスブック、インスタグラムなどのSNSで、毎日、情報発信しています。

最後にクイズです。これは何の形に見えますか。

（その他生徒）

トトロ。

（観光企画課）

正解です。横を向いたトトロです。六ヶ所村の泊（とまり）にあります。実は、県の担当者が横を向いているトトロに似ていることに気付いて、青森にもこういう所があるということを、県のツイッターに投稿したところ、「泊（とまり）のトトロ」として、いろいろなメディアで紹介されました。皆さんも「これに少し似ている」とか「こういう所がある」というものが東通村にあったら、ぜひ、教えてください。



（知事）

県庁では、提案者が企画立案した事業を自ら行う庁内ベンチャー制度というものを設けていて、観光の情報発信の事業はここからスタートしました。このように自由な発想でいろいろなことをやろうというのが今の青森県庁です。

皆さんもぜひ、面白いと思うものがあったら、県の担当者に教えてください。東京のメディアに伝えるのでよろしくをお願いします。

(下北地域県民局 地域連携部)

下北半島には、仏ヶ浦や恐山、大間まぐろなど、有名な観光スポットや食がたくさんあります。そして、東通村にも、寒立馬や尻屋埼灯台のほか、能舞、東通天然ヒラメ刺身重、北部海岸など、自然、歴史、文化、食に、それぞれ魅力あるコンテンツがいくつもあり、多くの観光客が訪れています。

今年は、青森市の中学生が修学旅行で下北半島に来ました。生徒からは「下北半島や東通村の魅力を発見することができて、非常に楽しかった。」という感想もありました。実際に来てもらうことで多くの方に下北半島の良さが伝わるので、情報発信の重要性を改めて感じています。

下北地域県民局では、国内外から多くの観光客に来てもらうために、大湊海軍コロッケでのまちおこしや台湾向け観光情報の発信などに取り組んできました。最近では、下北半島の素晴らしいフォトスポットを紹介する「青森県下北半島ルートマップ」や、自然、祭り、食、体験などをテーマに四季折々の魅力をドローンの映像を取り入れて紹介する「青森県下北半島動画」を作りました。

(青森県下北半島動画 (秋・冬編) 放映)

この動画は、観光施設や旅行中のバスやフェリーなどで見てもらうほか、YouTubeでも配信していて、下北半島の魅力を広く発信しています。

皆さんにとって、東通村は身近にあつて、良いところになかなか気付かないかもしれませんが、観光客や他地域の人からすると、とても魅力的な場所とされています。将来、進学や就職などで一度は地元を離れるかもしれませんが、その時は、東通村や下北地域の魅力を誇りに思い、友達や同僚などにたくさん紹介してください。

今後とも、下北地域県民局では、多くの観光客に来てもらえるよう、市町村等とも連携しながら情報発信に努めていきます。

(知事)

このような取組をして、青森県の外国人延べ宿泊者数は震災前に比べ、約6倍にまで増えました。今は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で一気に減ってしまつて、少しへこんでいるけれど、負けてはいられないので、このようにインターネットを駆使していろいろな所に情報発信しています。

将来の夢は、中学校の先生だそうですね。



(発言生徒2)

社会の授業がとても好きなので、それを生かした職業に就きたいと思ったからです。

(知事)

青森県では、教師になりたいという人が不足しています。そこで、青森で教師をやってもらうために、県外で3年以上教師をしていたら、青森県の教員採用試験の1次試験を免除することもしています。

(教職員課)

教師になるためには、教員免許を取得することと、教員採用試験を受けることが必要です。

教員免許は、授業を教えるために必要な資格で、皆さんの先生たちも持っています。小学校や中学校、高校など、学校の種類ごとにあり、その上で、中学校や高校は国語や社会など、高校だと社会でも地理歴史、公民と、教科ごとに免許が分かれています。取得するには、大学などで必要な単位を取らなければいけません。社会科教師の免許であれば、教育学部や法学部、経済学部などで取ることができます。

また、教員採用試験とは、教員として採用されるための試験です。青森県の公立学校の教員になるためには、教員免許を取得した上で、青森県教育委員会が実施する教員採用試験を受けることが必要です。

教員になるためには、今のうちから一生懸命勉強し、規則正しい生活や望ましい食習慣を身に付け、他人のことを思いやる心を持ち、部活動や生徒会活動など、いろいろなことに興味・関心を持って経験してみてください。

そして、将来はぜひ、青森県で先生になってほしいので、青森に愛着を持ってもらいたいと思います。

(知事)

きちんと勉強していれば大丈夫です。

自分の人生だからどこに行ってもいいけれど、東通村のこと、青森県のことを忘れないでください。

(発言生徒3、2年男子)

僕たちは、毎年、原子力災害を想定した避難訓練を実施しています。でも、高齢者や体の不自由な人は災害時に避難できるのか心配になり、村の担当者に聞いてみました。すると、一人ひとりの障がいの状況や住んでいる地区ごとに、適切な避難方法を決め、専用の車を準備しているという説明を受け、とても安心しました。

このように一人ひとりに合った避難方法を事前に決めておくことは、災害がいつ起こるか予測ができないため、とても重要であると思います。

県では、災害時に高齢者や体の不自由な人が迅速に避難できるようにするために、どのようなことをしているか教えてください。



(知事)

今日の午前中に原子力防災訓練をしましたけれども、災害には原子力だけでなく、地震、津波、風水害といろいろあるため、訓練もいろいろなパターンを想定して行っています。また、災害が発生した時のために、避難用の車や施設もそろえています。

実は、原子力災害が発生した時は、外に逃げるというよりも、建物の中に居た方が安全なのではないかということが最近分かってきました。遠くに避難できるようになるまで、学校だけでなく、福祉施設や幼稚園なども含め、外から放射性物質が入らないようにして建物内に居るという考え方もあって、段取りを整えているところです。

(防災危機管理課)

この日本地図は何を表しているか分かりますか。実は、特別警報が発表された地域を表しています。濃く塗られている所が、特別警報が出た所ですが、青森県では発表されたことはなく、東日本大震災以来、死者が出るような災害も起きていません。

ただ、これだけ日本全土で特別警報が出ているので、青森県でもいつ大きな災害が起きてもおかしくないということを、皆さん覚えておいてください。

そこで、県では、災害時に備えるために、青森県防災ハンドブック「あおりおまもり手帳」を作成しています。

(知事)

全ての家に配布していて、防災のことがすごく分かります。

Q.何を表している
日本地図でしょう。



(防災危機管理課)

この手帳は、単なる読み物ではないし、災害が起きてから見るものではないので、いつでも確認できる所に置いて、定期的に目を通してほしいと思います。もし、家がないようであれば、東通村総務課で入手できますし、青森県防災ホームページにもデータで掲載しているので、ダウンロードも可能です。

ほかにも、津波や水害のハザードマップなどで、自分が住んでいる所は本当に危険なのかということと事前に調べておくことが大切です。その上で、もし、避難所に行くまでに災害に遭ってしまいそうな場合は、避難しないということも1つの考え方です。危険な場所から避難することが大事ですので、避難指示が出たからすぐに逃げなければいけないということではなく、どのようにすれば被災しないのかを考えた上で行動してください。

高齢者や体の不自由な人の避難については、各市町村に「避難行動要支援者」の名簿やその方たちに合った避難の「個別計画」の作成をお願いしています。この名簿や計画がしっかり作られると、どこに避難すればいいのか、誰が避難の助けをするのかが明確になります。

東日本大震災の時、岩手県釜石市の鶴住居地区では、日頃の防災訓練のおかげで、中学生が主体となって率先避難し、それを見た小学生等も避難した結果、地元の小中学生は被害者をほとんど出すことなく、高台へ避難することができました。皆さんも、本日の午前中のように今後も防災訓練に参加し、災害時に備えてほしいと思います。

最後に、災害時は皆さんも大きな力となるので、助けられる側から助ける側になってください。青森県は若い力を必要としているので、よろしくをお願いします。

(知事)

災害時には、みんなの力を貸してください。

将来の夢は医師ということですが、しっかり勉強していますか。得意科目は何ですか。

(発言生徒3)

数学です。

(知事)

将来は青森県で頑張してほしいけれども、どの人生も自分で決めるものだから、県外、世界に行つて勉強してみても良いです。

最後に、司会生徒の将来の夢が消防士ということですので、消防士からアドバイスします。



(防災危機管理課)

消防士になるには、高校又は大学を卒業し、各市町村の公務員試験に合格後、半年間、消防学校で寮生活をしながら、基本的な知識や技術、規律や協調性を養うことが必要となります。

消防士の仕事は、人を危険な状態から守ったり、助けたりすることで、活動は救急救助、自然災害等での現場活動など、多岐に渡ります。危険な活動もありますが、命を懸けて人を助けることができた時に言われる「ありがとう」という言葉が何よりもうれしいし、消防士になって良かったと思える瞬間です。

将来は、ぜひ、県民の生命・財産を守る強い意志を持った消防士を目指してください。

(知事)

どんな仕事でも、自分がこの仕事で生きていきたいと思ったら、その道を歩んでください。将来はできたら青森県に残ってほしいけれども、自分が選んだ仕事は日本や世界のどこかにあって、君たちの人生として精一杯生きたという気持ちになれるのなら、自分の意志でどこに行っても良いのです。

言いたいことは、自分の行きたい道を自分の責任で進んでもらいたいので、中学校でもすごく勉強しなければいけないと思います。そしてしっかり勉強して、その中で自分の生きる道を考えてくれたらうれしいです。

今日は、本当にありがとうございました。

